

MA・SO・BO通信

TAKE FREE

2023 1 > 2

寄稿 絵本をよむ。ということ ～絵本と電子メディアの違い～

フリーアナウンサー・絵本専門士 岸春江

■ 絵本がすごいと思うのは

デジタル化が普及した現代でも、なぜ子どもの成長に「絵本」が推奨されるのでしょうか？

私が絵本に魅了されたのは、14年前の出産がきっかけでした。子どもを授かったら、当たり前のように「絵本を準備しなくちゃ」と思っていました。理由はわかりません。「そういうものだ」と、思い込んでいたから。

実際に0歳児に読んでみたら、最初はまったく反応しなかった絵本に翌日は指差しをするようになったり、ページを自分でめくるようになったり、その成長が目覚ましく「これはすごい！」と感じることが次々と見えてきたのです。

ある日、1歳になったばかりの娘と「子育てサロン」に行った時、娘はハイハイでたどり着いた本棚から何かを取り出しました。それは我が家にもある1冊の絵本でした。日頃から特別その絵本に反応していなかったですし、本棚の一番下に並んでいましたので、私は「偶然」と思う程度でした。ところが、別のお出かけ先でも娘は本棚にある一冊を一生懸命指差しするのです。今度は少し高い場所に並べられていました。「これ？」と取り出したのは、先日と同じタイトルの絵本。どちらの本棚も500冊以上おさまっていて、背表紙しか見えていないにも関わらず、彼女はその絵本を見つけ出したのです。まだ文字が読めない1歳児。その時私は初めて、絵本の細い部分に書かれた文字を【かたち】として捉え、他との違いを理解していた事を知り、ハッとしました。それからは今まで以上にたくさんの絵本を見せるようになりました。びたりとくっつき一緒に笑い、一緒にページをめくる繰り返しは、楽しいばかりではなく、何度もせがまれる事が修行のように感じた時もありましたが、気づけば毎日の習慣となっていました。

■ 絵本を読んだ結果

絵本をたくさん読んでもらった子は、たくさんのお話を獲得します。すると自分の気持ちをことばで表現できるようになりますから、周りに理解してもらいやすく、感情のコントロールに繋がります。想像力も広がりますので、面白いアイデアや工夫をするようになります。時には物語から人間の愚かさを学んでいるかもしれません。世界中で「絵本を読んだ効果」は研究され、脳の発達はもちろん、心の成長に大きく繋がっているというのは一致した答えです。

ただ、一番感じて欲しいのは「愛情がしっかり伝わること」です。以前、成人を迎える方を対象に「思い出の絵本アンケート」をお願いしました。そのコメント欄には「タイトルが思い出せなくて書店に行きました。見つけた絵本が懐かしくて読んでみたら、そのおはしが全部、お母さ

んの声でリフレインされました」と書いてあったのです。何度も繰り返し読んでもらったのでしょう。20年近くの時が経ち、タイトルを忘れても、お母さんの声は蘇ってくるのです。「自分がちいさな頃、いつも側で読んでくれた。私は愛されて大きくなったんだ。」と実感したそうです。

絵本の子育ては、そういうものです。絵本で公共マナーを学ばせたり、仲良くしましょうと説得したりする必要はまったくありません。一緒に読み、楽しい時間を共有する。その繰り返しが大切なのです。

■ 絵本とネットの子育ての違い

最近は何んでもデジタル化され、子どもたちがゲームやスマホを持つのが当たり前のような時代に突入しています。デジタル機器に子どもを預ければ、親は自分の時間ができて楽かもしれません。しかし、依存しやすいネットは過剰な使用時間の子が増え、成長に様々な弊害を及ぼしていることも事実です。私は絵本の魅力を伝える時に、デジタル機器が子どもに与える影響も含め、その違いをしっかりと説明しています。よく「今後IT化が進むので小さなうちからゲームやスマホを持たせた方が良いのでは？」と言われる事がありますが、大丈夫。もっと大きくなってから利用してもすぐに使いこなせますし、ゲームをたくさんやる事でプログラミングの基本が学べる訳ではありません。小学生の保護者の方からは「スマホをみんな持っているのに、うちの子だけなかったらいじめられる」と心配の声も聞こえてきます。しかし実際今は、スマホを持っている子たちのいじめが急増しています。持たせたいと思ったならば、ぜひ「みんな持っているから」を理由とせず「なぜ必要なのか？」を考えてみて下さい。

子どもの成長に大切なのは、しっかりと向き合う事です。絵本はほんの数分で、日常では体験できない世界を共有し、一緒に笑ったり泣いたりする事が出来ます。絵本に書かれた「だいすき」のことは、読み手が自分に言ってくれてると受け止めてくれます。

中には親御さんに読んでもらえない環境の子どもたちもいるでしょう。親でなくても構いません。見守るおとなたちからたくさんワクワクを届けてもらえた子は、同じように人間の繋がりの素晴らしさや温かみを知ってくると信じて私は活動しています。ぜひ、皆さんも子どもたちと絵本の時間を共有して下さいね。

フリーアナウンサー・絵本専門士

岸春江(きはるえ)

短大卒業後、野村證券札幌支店入社。その後、フリーアナウンサーとなる。STV「どさんこワイド」やCMなど多数出演。2008年の出産を機に絵本に魅了され、2014年絵本セラピスト、2017年絵本講師、2020年絵本専門士認定。2018年には子どもとメディアインストラクター北海道、乳幼児メディアインストラクターも取得。2015年に立ち上げた絵本サークル「ファンタジア」は北海道読書推進運動協議会「優良読書グループ 奨励賞」を受賞。現在も絵本イベントの企画・運営を行い「えほん図書館」などで無料のおはなし会を開催中。絵本ナビゲーターとして、絵本とメディアの講演会や読み聞かせボランティア育成講座などの講演も多数。



連載 「中島児童会館で育った私の児童劇は 10」

道内唯一の母親児童劇団「ぐるーぷ えるむの森」

鈴木 喜三夫

こどもの劇場「やまびこ座」を拠点に誕生した児童劇団は多い。そのなかでもユニークなのは「母親」だけの劇団「ぐるーぷ えるむの森」だろう。北海道で唯一どころか、国内にもないのかもしれない。「やまびこ座」だけでなく、幼稚園・保育園や小学校でも公演している。

1994年に札幌市内の「エルムの森児童会館」で活動していたこの劇団は、「我が子が喜ぶ芝居づくり」を目標に何人かの母親たちによって創設された。その一人が「劇団さっぽろ演劇研究所」出身の杉本明美(現代表)で私は何かと相談を受けていた。そして2001年、創作劇『レッツゴー！おばけやしき』(赤間幸人作)の演出を引き受けたのである。当時、高校教師だった作者が書いた「元気な子どもたちがお化け屋敷に忍び込む冒険物語」に、その母親たちと挑む。

夏、合宿に参加して私は驚く。ほとんど一晩中、彼女たちは唄い、踊り、飲んでいるのだ。このエネルギーは何処から湧いてくるのか——何人もの

子どもを育て、家事をこなし、夫を支えて芝居を創る。その生き方にこそ、その源があったのを知る。9月下旬、この作品は「やまびこ座」で公演され注目を集めた。

さらに「～えるむの森」の存在を確かなものにしたのは11年に何回かの上演を重ねた『あらしのよるに』(きむらゆういち作/杉本脚本・演出)だろう。きむらの良く知られているお話を元にして杉本が書いた脚本が素晴らしい、天敵の狼を好きになった羊と、何時食べようか苦しむ狼の姿が切ない。寄り添う二匹のシルエットが大きな月のなかに浮かぶ幕切れは圧巻。演出協力をした私は「座・れら」の男性陣を狼たちに加え迫力を出す。作品は「札幌劇場祭」サブライズ賞に輝く。

さらに16年、『町に怪獣がやってきた』(宮部みゆき『ヨーレのクマー』を参考に/杉本脚本・演出)でも演出協力。宮部ファンの私が読んで『悲嘆の門』のなかに出てくる「ヨーレのクマー」が面白く、杉本に提供した。

その町が大好きな怪獣——彼は身体が透明なので街を襲うほかの怪獣をやつても町の人は分からず、聞いて傷つき自分の姿が見えるようになった怪獣は町の人に誤解され、湖に消えていく悲しい物語。この時も「座・れら」が協力した。

そんな関係から両劇団はキャストやスタッフとしてお互い協力し合うことが多い。そのなかでも印象に残るのは『あらしのよるに』の芝居で、病気のため車椅子で懸命に狼ガブを演じた榎本玲子の迫真の舞台だ。今でも忘れられない。

(敬称略、つづく)



『あらしのよるに』舞台写真

鈴木 喜三夫 (すずき きみお)

1931年・札幌生まれ。札幌北高から東京・玉川学園大学へ入学。56年中退してテレビ作家で活動後、札幌へ帰り59年専門劇団「さっぽろ」創設。86年フリー演出家、2009年「座・れら」を結成、現在に至る。94年北海道文化奨励賞、07年北海道文化賞受賞。04年「北海道演劇1945-2000」(北海道新聞社)上梓。



ほん MA・SO・BO シェルジュ HON-CIERGE

本のご案内「本シェルジュ」 厳選本の紹介 荒井さん編 ⑤

『クジラのおなかからプラスチック』

著:保坂 直紀 出版社:旬報社

交通網や情報網の発達で世界は以前より狭く感じられます。そして環境破壊の影響が如実になるのを見るにつけ、地球そのものも昔より小さく感じます。この本には、広大な海に棲む魚たちを超える数量のプラスチックゴミが海に溢れるという、やりきれない近未来が示されています。ペットボトルやストロー、レジ袋が海の底の根を止めるだなんて、30年前、いえ10年前だって公には理解されていませんでした。いまでもこの事実を知らない人のほうが多いかもしれません。現在、小学校や中学校の授業では海洋汚染についての最新の知見が紹介されており、大人も「そんな知らない」というわけにはいきません。ぜひお子さんと一緒に手にとって読んでほしいと思います。



『小学校では学べない 一生役立つ読書術』

著:齋藤 孝 出版社:KADOKAWA

「読書好き」であることが、国語だけでなく算数やほかの科目にもプラスに働きかけることが、さまざまな調査で明らかになっています。またテレビの検証番組では「読書が健康や長生きに関連している可能性」も話題になりました。「このネット時代にアナログな紙の本で読書って、時代に逆行していない？」という声もよく聞きますが、さまざまな理由から、インターネットが本の役割を完全に代替することはだいたい先の時代になりそうです。大人になって「国語の授業」を振り返ったとき「なんだったんだろ、あれ」という印象を持つひとは多く、作文や感想文に苦手意識を持っていた人も少なくありません。ぜひ自らの意思で「読書術」を身につけてみませんか。



『ひとりで探せる 川原や海辺のきれいな石の図鑑』

監修:柴山 元彦 出版社:創元社

日本って、本当に不思議ですよ。国土の面積が世界の陸地の0.25%しかないのに、マグニチュード6以上の地震の23%が日本で起きています。こんなに狭い国なのに車の販売台数は世界第3位。平均睡眠時間が世界で一番短いのに、世界一の長寿国。そして世界で約4500種といわれる鉱物の約半分が日本で発見されているという事実！しかも日本では毎年2種類くらい新しい鉱物が発見されているそうです。なんて不思議な日本列島！とはいえ、日常で何種類もの石をみることはありませんよ。最近、石を触ったのがいつだった覚えていないくらいです。それが、こんなに種類がある豊かな国だなんて、びっくりです。思わず、この本を片手に川原や海辺にでかけたくなりますね。



編集後記

子どもの頃、絵本を読んでもらうのも、自分で読むのも大好きでした。今でも本屋さんで見かけたりして、懐かしくって、ちょっと開いてみるとキュンとなったり。みなさんの思い出の絵本ってありますか？(柳本)

お問い合わせ・お申し込み 札幌市中島児童会館 tel 011-511-3397
札幌市こどもの劇場こぐま座 tel 011-512-6886
〒064-0931 札幌市中央区中島公園1番1号(地下鉄南線「中島公園駅」3番出口より徒歩1分)

MA・SO・BOに関する最新情報、MA・SO・BO通信のバックナンバーはホームページからご覧いただけます。
<https://koguyama.jp/masobo/index.html>

